



なんでやねん



発行責任者 倉橋 忠

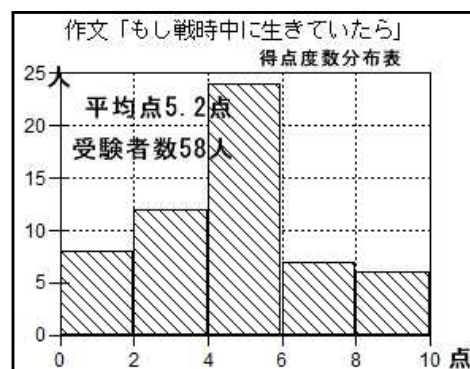
No. 3 0

課題作文「もし、自分が戦時中に生きていたら」の評価 むづかしいのに「良く書けていました」

課題作文を評価して

今回も、6月21日(火)の授業中に「7分間」で作文に挑戦してもらいました。全体的な傾向としては、よく書けるようになってきました。君たちの吸収力の旺盛さに驚きました。

まず、すべての答案が、太平洋戦争時の中学生になった気持ちで、書くことが出来ています。今回のように「自分なら」と考えることが出来るようになることを「主体的」と言います。君たちの作文を読んでいると、「主体的」な自分の気持ちを少しずつ表現できるようになっていることを強く感じます。



これに、授業や「なんでやねん」で伝えている専門用語をキーワードとして使えるようになると、普段の学習が、学力として開花します。あと少しです。もう少し、専門用語を使うクセ・習慣をつけるようにしてください。それができれば、どんな小論文や作文のテストにも対応できるようになります。

しかし、その反面で、君たちのGLTに向かう姿勢には、私にはまだまだ不満があります。GLTの課題を事前に知らせていたにもかかわらず、準備をしていない人が大半でした。何も準備しないでGLTをしても、「お話し会」に終始する危険性があります。楽しく時間を過ごせますが、肝心の学力を高めることにはつながりません。

このままだと、GLTは、時間という貴重な資源を失うだけの「活動」になりかねません。学力的には、むしろ、マイナスに働くでしょう。様々な意見の中で「自分の意見をさがす」ために、必ず、GLTがあるときは事前の学習をしておいてください。せめて、GLTの前には、自分で教科書と「なんでやねん」を読んでおいてください。

【問題】

あなたが1944年(昭和19年)に生きていますとします。そして、あなたは尼崎市に住んでいて、15歳です。そんな時、もしも、次のような場面にあつたら、あなたはどのように行動しますか。

次の課題①と課題②のうち、どちらかを選択して、作文を書きなさい。

友達の作品から学ぼう

次に紹介する「代表作品」は、今回の課題作文で、10点満点中7点以上を獲得した「答案作品」の一部です。いろいろな表現方法があります。参考にしてください。

それぞれの「答案作品」に書かれていることは、今日的な視点で見れば、「本当のこと」から離れていることもあります。それは、その当時は、国民に知らされる情報が、政府に都合のよいようにコントロールされていたからです。それを踏まえて表現しているこれらの「答案」は非常に高いレベルの「作品」だと言えるでしょう。

なお、ここに紹介する「答案作品」は、そのままをワープロ打ちして再現していますから、漢字の間違いなどもあります。内容的に疑問点や誤りがある場面は、私(倉橋)が指摘していますので、注意して読んでください。

【課題①】の代表答案

作者：C. A.

となりのお兄ちゃんはお国のために兵隊さんになって戦いにいってんねん。

それに、米が食べられへんのも、兵隊さんに行く人が増えて、米をつくる人が減ったからやで。

それに 今はお米が食べられへんくても、カボチャがあるし 1つでも食べれるものがあるだけでも感謝しなあかんねんで。お国も今、激しいねんやから、わがままは ゆったら あかんねん。
お国が勝つためにも 少しの しんぼうやねんから、兵隊さんがんばってもらうよう応援しよ。

(米の代用食品として、カボチャを栽培して食べたことを話題にして幼い子どもにわかるように説明しています。これに、徴兵制と国家総動員法というキーワードが入ると、もう少しインパクトのある作文になるんだけどね。残念です。倉橋)

作者：K. I.

となりのお兄ちゃんはお国のために働きにいったんやで。

いま、戦争やってるやろ、だからお兄ちゃんはその人たちを手伝いにいったんやで。となりはたしかに農家でお米を作ってるけど、お国に返さないとあかんから となりの人も同じようなご飯食べてるんやで。

となりのお兄ちゃんたちは お国のために命を危険にさらしてまでたたかってくれ

【課題 ①】

国民学校(小学校)2年生の妹(8歳)が「となりのお兄ちゃん、畑に昨日までいてたやん。なんで、おらんようになったん？ どこに行ったん？ となりの家は農家やからお米あるんやろなあー。 けど、ウチはなんで食べる米がないん？ 私は毎日、いもばかりでいやや」と泣いている。もちろん、あなたもお米のごはんを、しばらく食べた経験がありません。よくてサツマイモのはいった雑炊です。砂糖の配給も止まりました。あなたなら、8歳の妹にどのように説明しますか？

あなたが、妹に話したいことを作文にしてください。

てるんやから、お兄ちゃんたちの分のご飯も必要やろ？ ご飯たくさん食べないとお兄ちゃんたちたたかわれへんやん。

だから、自分のために がんばってくれている人が、自分たちより多く食べるのはあたりまえ。

みんなくるしい中でがんばってたえてるんや。ご飯を作る人たちだって今おらんようになってきてるんや。だからみんな同じやからがまんしい。

(後半の段落で「お国のために命をきけんにさらして」という表現があるので、隣の兄ちゃんが兵隊に行ったと理解している様子が読み取れます。しかし、前段の「お国のために働きに」という表現は、勤労働員と勘違いしてしまいます。このような場面でも、徴兵制や勤労働員、国家総動員法というキーワードを使うと効果的です。なお、「お米を … 国に返す」はおいしい表現です。ここは「国に供出する」か「国が買い上げる」とすると良かったでしょう。倉橋)

作者：M. K.

隣のお兄ちゃんは、お国のために兵に出された。満20歳以上の男子は、徴兵制で、兵役の義務を負わなければならない。もしかしたら、もう帰ってこないかもしれない。

隣は農家だけど、お米の個人的売買は禁止されていて すべて国に管理されている。だから、隣もお米があるわけじゃない。今、日本は食料不足だ。たくさんの若者が、徴兵制のせいで兵に出された。そのため、労働者の数が減り、生産力が落ちてしまった。それに、お米の10%以上は植民地から輸入しているけど、植民地でも徴兵や強制連行が行われていて、なかなかお米が手に入らない。

そして、砂糖の輸入先であるフィリピンからの輸入も、アメリカに止められてしまっていて、日本では配給できるほどの量の砂糖が作れない。だから、砂糖の配給も止まってしまった。

(多くの専門用語を使いながら詳しく説明しています。幼い子どもに伝えるときにも、できるだけ正確に伝えたいですね。特に、日本の植民地支配にまで考えを広げて、日本の食料事情を伝えているのは見事です。

なお、ここで、授業中に「フィリピンの砂糖を輸入できなくなった」と説明した、私のミスを訂正して謝罪します。

太平洋戦争前までは、日本の砂糖は、沖縄や台湾で生産されるものに頼っていました。台湾は日清戦争後から日本の植民地でしたが、太平洋戦争が始まると次第に輸送船の行き来も難しくなって日本に砂糖が入らなくなりました。当時のフィリピンは、アメリカの植民地でアメリカ向けの砂糖を生産し輸出していました。植民地以外からの砂糖の輸入先では、インドネシアの方が多かったようです。ごめんなさい。倉橋)

作者：Y. M.

となりのお兄ちゃんはね、20歳になっていたから、ぼくたちのために、他の国と戦いにいったの。

農家は国にしか売ることができないから もらえないんだ。農作業をしている人も、戦争にいつているから、食べ物がどんどんへっているんだ。だから芋でがまんして。他の人はみんながんばっているから。戦争はつらい。みんな、いやだと思っている。

でも、もんくを言わずにがんばっているの。だから、これから、いやなことがいっぱいあると思う。でも もんくいわずにがんばろう。

大切な人が死ぬのはつらいし、悲しいけど みんなそれでもがんばって生きているよ。だから、ぼくがせんそうに行行って死んでも、しっかり生きろよ。

(徴兵で隣のお兄ちゃんが戦地に行ったこと、農作業をする人が戦争に行ったので食べ物が減っていることを、幼い子どもにいてねいに説明しています。「みんないやだと思ってる」「ぼくも戦争に行行って死ぬかも知れない」という臨場感が説得力を持っています。ただ、この作文も徴兵制や国家総動員法というキーワードが書けていないのが残念です。その意味や内容は書くことが出来ているんですから。倉橋)

作者：M. Y.

となりのお兄ちゃんは、自分たちと この国を守るために戦争に行行ってんで。となりのお兄ちゃんが国を守ってくれるから安心していいよ。

芋ばかりじゃなくて芋だけでもありがたいと思わなあかん。

となりのお兄ちゃんも そうやけど、兵隊さんたちみんなは死ぬかもしれへん場所で戦ってる。芋を食べれるということがどれだけ幸せなことか。隣の家には畑があるからお米を食べれる。でも、僕たちはまだ大人じゃないから畑を持ってない。

僕が大人になったら必死に畑でお米たべさしたるから 今はがまんしとき。あんただけが嫌やと思ってるんじゃない。たくさんの子が同じ思いをしてる。

もっとひどい子は、芋さえ食べれてないと思う。

今の自分がしあわせやと思わないとあかんで。

(この作文には、隣のお兄ちゃんが兵隊に行ったこと、食料が国内で不足していることをふまえて、幼い子どもに説明している様子が描かれている。食物があることのありがたさを訴えています。しかし、畑で米が取れるという間違いをしています。米(稲)は田で取れることを忘れないようにしたいですね。都会で育つ君たちの弱いところ(知識)です。なお、大人になってお金を稼いで畑をかうつもりでM. Y. さんは書いたのかな? 残念。倉橋)



昭和19年立花国民学校児童と収穫されたカボチャ(河合勇雄提供)
(『尼崎市史 第3巻』尼崎市役所 1970年 p. 693より)

【課題②】の代表答案

作者：K. K.

お姉ちゃんは、人手が少なくなった工業で働いてお国のためにがんばらないといけない。だから弟も、がんばって疎開に行ってきたさい。

行かないと、警察官につかまってしまって 今よりもっと大変なくらいをしないといけない。

だから、ちょっとの間 会えなくなるけど、弟もがんばって。

国家総動員法って法があるんだ。

それはね、お国のために国民全員が力を合わせて がんばりましょうという法で、食べ物も配給制になってすくなくなったけど、今はお国の将来のために私達ががんばらなくてはならないのです。

戦争に勝つために みんなそれぞれががんばっているんだよ。

弟だけ がんばらない？ それはダメでしょ。だから、少しの間だけ、自分や周りの友達に負けずにがんばってよ。お姉ちゃんも仕事がんばるから、。 お姉ちゃんだってつらいよ。でも、お国のためにやらないといけないの。

(勤労働員の意味をていねいに説明しています。「人手が少なくなった工業」を「人手が少なくなった工場」と表現するほうが良かったでしょう。「工業」では客観的すぎて、一人の中学生が働く現場を表せないからです。ただ、勤労働員か学徒動員の文言がないのが残念です。それに対して、国家総動員法は明確に書けているので説得力があります。食べ物の配給制を例にして、8歳の弟に説明している様子は、お姉ちゃんの弟への愛情を感じられます。倉橋)

作者：M. T.

兄弟はなれて私もさみしいけど、私は日本がこの戦争に勝つように中学生だから工場ではたらくんだ。本当は私も弟と遊びたい。学校で勉強もしたいけど私が勤労働員として働くのは天皇の命令。だから絶対だ。行かなかったら、おまわりさんがきて弟とも会えなくなってしまう。そんなに疎開にいくのがイヤかい。街は空襲といって空からばくだんが落ちて死んでしまうかもしれない。疎開にいけば空襲をのがれ死なずにすむ。疎開に行くそれが弟に与えられた天皇の命令だ。それが弟にしかできない国への尽くし方だ。戦争は本当に一般人の命までもうばっていくものなのだ。

(空襲と疎開の関係とその意味をていねいに説明しています。この作文には、「天皇の命令」を二度使っています。当時では、天皇の命令が絶対でしたから、それを強調する意味も感じさせます。「戦争は本当に一般人の命までもうばっていくものだ」の表現が心に響きます。国家総動員法の言葉をどこかで使いたかったですね。倉橋)

【課題 ②】

あなたは中学生です。中学校で勉強するのではなく、町の工場^{せんとう き}で戦闘機^{せんとう き}の部品^{ぶひん}を作る作業^{さぎょう}に行くように命令^{めい}が来^きました。この命令^{めい}に従^{したが}わなかったら、警察官^{けいさつかん}が来^きて逮捕^{たいほ}されてしまいます。仕事を休^しむと警察官^{けいさつかん}が来^きます。

そんな時に、国民学校^{こくみんがっこう}(小学校)2年生^{にねんせい}の弟^{あに}(8歳^{さい})に、住^すんだこともない氷上郡^{ひかみぐん}の農村^{のうそん}に、集団^{しゅうだん}疎開^{そかい}に行くように命令^{めい}が来^きました。弟^{あに}は、家族^{かぞ}と離^{はな}ればなれになるから「いや」と言って、集団^{しゅうだん}疎開^{そかい}に行こうとしません。あなたは弟^{あに}にどのように説明^{せつめい}しますか。

あなたが、弟^{あに}に話^わしたいことを作文^{ぶん}にしてください。

作者：Y. K.

日本には国家総動員法という法律があって その法律では国民全員が国のために尽くさないといけないんだ。お兄ちゃんも毎日 工場に行くのはとてもつらいことなんだよ。だけど今戦地で日本の兵隊さんたちががんばっているんだ。この国家総動員法は天皇の命令だから絶対に逆らうことはできないんだ。ここに住んでいたら いずれ空襲が来て死んじゃうかもしれないから。日本の未来のために疎開をして空襲が来ないような所へ行くんだ。

もし、疎開して氷上群の農村に行けば その農村にいた子どもにいじめられるかもしれない。それは元々少ない食料なのに疎開してくる子どもたちが来てもっと食料が減るからだよ。疎開したらつらい生活になるかもしれない。もらえる食料はそのときに食べるんじゃなくて少しずつためていったほうがいいと思うよ。そして本当におなかですいたときにそれを食べるんだよ。家族とはなればなれになって さびしくなるかもしれないけど またいつか会えるから そのときまでがんばるんだよ。

(この作文には、国家総動員法の意味と空襲と疎開の関連をていねいに説明しようとする工夫がされています。さらに、疎開先で「いじめられる」可能性を心配して、幼い弟が、そのつらさに耐えられるように、受け入れ先の農村の子どもたちの気持ちを客観的に説明しています。自分の立場だけではなく、相手の気持ちもくんで自分の行動を考えることの大切さをお兄ちゃんらしく教えています。「またいつか会えるから そのときまでがんばるんだよ」という表現に、弟への愛情を感じさせてくれます。ただ、当時の食料事情から言えば、いつもおなかはペコペコです。だから「少しずつためて食べる」ことが可能だったかどうかは、とても難しいけどね。

なお、文中の「氷上群」は「氷上郡」ですね。

国家総動員法は法律で、法律は国会が制定する規範です。それに対して天皇の命令は「勅令」という形式で発布されます。これは、天皇の名前で政府が出した命令でした(命令には、〇〇令と令がつきます。例えば、徴兵令とか徴用令という名前の命令がありました)。倉橋)

作者：A. K.

今、世の中で戦争がおきているのは知ってるよね。空襲という怖いもので いっきにたくさんの人が死んじゃうんだ。でも あなたたちの小学生は、今戦争で国のために戦ってくれている人のように、将来戦わなければならないんだ。それで今、小学生を守るために学童疎開に行ってもらわないといけないんだ。私も本当は中学校で皆と勉強がしたいけど、国の命令にしたがわないと殺されてしまうから工場で働かないといけないんだ。辛くてはなればなれになるのが嫌なのは私もあなたも皆 同じだから、お互いがんばろうよ。嫌だと思ったりしたらお国のためって思っ一緒のりこえよう。もし疎開に行ったら他の子たちにいじめられるようなことがあったら悲しいだろうけど、絶対に負けないで、前向きにすごせば大丈夫。食料も少ないだろうけど、一緒に作るのを手伝っていろんなことに協力していただいじめなんていつのまにかなくなっているから。

(学童疎開が、子どもの人権を守るためではなく、将来の戦力としての「国の宝」を守ることだったと理解していることを表現できています。今日の感覚とは、全く異なる視点ですね。疎開を今日的に読めば、幼い子どもに罪はないから、子どもだけは守りたいと理解したくなります。しかし、軍国主義＝全体主義の時代にそんな人権感覚は全くなかったんですね。この作文は、それだけでなく、「私も本当は中学校で皆と勉強がしたい」と本音を語り、勤労働員はやむを得ない選択であることを上手に表現し

ています。また、疎開先での弟の苦労を気遣って、いじめにあうことも教えながら、食料生産と一緒に手伝うことで、農村でのいじめから身を守るように智恵を伝えています。倉橋)

作者：A. H.

戦争に勝つためには、私達がお国に力をかさなければならないの。私も、行きたくないし、家族と会えなくなるのはすごく悲しいし、こんな制度がおかしいと思ってる。ご飯は芋ばかりで、賃金もない、でもね あなたより10才上の人は、学徒出陣と言ってね、国のために死ななければならないの。それを、私達はつつ立って見てるわけにはいかないでしょ？ だから、私も工場へ働くの。

あなたがもし いかなかったら、人が何人か死ぬかもしれない。でも、もし行ったら、一人の命を助けられるかもしれない。一人の命を助けるって大きいこと。私は、あなたが警察につかまって、うえ死にする所なんて見たくない。家族はバラバラになるかもしれない。でも、生きていたら、いつか必ず会える。だから、お互いががんばろう！ 家族と離れていても あなたのお姉ちゃんは私しかいないし、あなたの家族は1つしかないんだから。

(勤労働員について「私も、行きたくないし、・・・こんな制度がおかしい」と自分の気持ちをストレートに表現しています。とても説得力があります。さらに、学徒出陣について、幼い弟に分かりやすく説明しています。戦争に行くのが「国のために死ななければならない」と表現していて、戦争を肯定するのではなく、仕方なく協力しなければならない「つらい」という気持ちが伝わる文章です。弟に呼びかけるだけでなく、自分の気持ちを強くするために「生きていたら、いつか必ず会える・・・あなたのお姉ちゃんは私しかいないし、あなたの家族は1つしかない」という表現は、心に響く表現です。ジーンと来ました。倉橋)

作者：M. M.

『国家総動員法という、戦争のためにみんなで協力するという法律があるから、お姉ちゃんは戦闘機の部品を作り、工場に行かなければならないんだよ。

空襲があると小学生まで殺されるし、あなたたちは、将来戦力にならないといけないから、今は疎開するんだよ。疎開先では、食料が少なくていじめられることがあるかもしれないけど、めげずに食料が増えるように農作業を手伝うんだよ。

お姉ちゃんもあなたと離れるのは、悲しいし、つらいけど、いつか一緒に暮らせるようになるまで、頑張ろうね。約束ね。』

と弟の気持ちが少しでも楽になるように、希望のある言葉をかけます。そして、弟だけでなく自分も頑張るということを伝えます。

こう言うことによって弟は疎開に行こうと思ってくれるのではないかと思います。

(多くのキーワード、国家総動員法、空襲、疎開、食料が少ない、農作業を使ってみごとにまとめられた作文です。キーワードで足りないとしたら、勤労働員という語句くらいだと言っていいでしょう。疎開先での「いじめ」についても言及することが出来ていて、弟へのアドバイスも忘れないでしています。この作文は、とても説得力があ

ります。より完成度を上げようとすれば、食料が不足するようになっているのかを説明することと、食料や日用品の配給制度にもふれたうえで、生活の苦しさや、戦争の怖さなどの自分の心情(気持ち)を語るといいでしょう。倉橋)

作者：M. W.

集団疎開は、あなたを安全な所で守るためにするんだよ。

もし、このまま尼崎におったら空襲を受けて死んでしまうかもしれないから。

それに、私も勤労働員で勉学はできず軍需工場で働かないといけないから あなたとずっといっしょにいて守ってあげられないから集団疎開に行ってほしい。

私もあなたと離ればなれになるのは つらいけど生きていればいつかは会えるからだから、どんなにつらくても この戦争が終わるまでたえてほしい。

私もどんなにつらくてもたえるから。

(集団疎開の意味をていねいに説明できています。勤労働員と軍需工場の関連もふまえて、抵抗できない状況にあることを説明できています。「生きていればいつかは会えるから」というフレーズは、幼い子どもにも伝わると思います。お姉ちゃんの手持ちが前面に出ている作文になっています。倉橋)



川辺郡中谷村へ集団疎開した長洲国民学校4年生 (長谷川滋勇氏提供)
(『尼崎市史 第3巻』p. 726)



昭和19年立花国民学校高等科2年生の増産挺身隊 (河合勇雄氏提供)
(『尼崎市史 第3巻』p. 665)